

「令和3年度 第2回 豊橋市地域公共交通活性化推進協議会」議事録

○日 時 令和3年11月19日（金）午前9時30分から

○場 所 豊橋市役所 講堂、東122会議室、オンライン

○出席者 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 0名

○事務局 7名

〔会議資料〕

◆次第

◆出席者名簿

【資料1】令和3年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）等について

【資料2】「地域生活」バス・タクシーに係る運行継続の取扱いについて

【資料3】北部地区「地域生活」バス・タクシー停留所の移設及び運行時刻の変更について

【資料4】「夏休み小学生50円バス」の実施結果について

【資料5】協議会今年度利用促進事業の実施状況について

【資料6】新豊線・豊川線の運行時刻の変更について

【資料7】域内路線のダイヤ改正について

議 事

1. 開会

- ・本日の議事録署名者として委員2名が会長より指名された。
- ・今回の議事の内容あるいは進行の過程の中で、非公開事項に関するところがあるかどうかの確認がされた。（非公開事項に関する事項はなし）

2. 議題

○協議案第1号 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）等について

- ・事務局より、令和3年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）等について、【資料1-1】【資料1-2】に基づき説明が行われた。

（質疑等）

（委員）

- ・基本的なところで申し訳ないが、資料1-2の3ページの「路線バスの路線網を放射線状に整備」とあるが、放射線というのは遠くなると広がる。そうすると線と線の間が広くなり、丸の中の人はいいが、家からそこまで行くのが大変になる。「放射線＝蜘蛛の巣」のようなことを考えられないかと前から思っている。
- ・公共交通に乗るために家からどれくらいの距離を想定してこれ（計画）を作っているのか。今は車だが、「自転車にしてください」と言われてもちょっと無理。怖くて自転車に乗れない。そうすると歩きしかない。ほかにどうやって公共交通に行けばいいのか。家から行くとなると1 km以上は絶対にある距離なので、どうすればいいのかというのが見えない。基本的なところで、もう直らないものかもしれないがお願いしたい。

（事務局）

- ・3ページは、「協議会が目指す地域公共交通の姿（Plan）」ということで、以前策定した計画の復習のような、作ってある計画のところになる。なかなか修正は難しいところではあるが、いただいたご意見は次期計画の改定の時に、しっかり検討していきたい。

（議長）

- ・バス停の施設をどれくらいの距離で考えているかの質問についてはどうか。

（事務局）

- ・鉄道域圏内は半径700m、バス停留所・路面電車圏内は半径400mを公共交通利用圏域として設定しており、そこで大部分の人をカバーしていると考えている。

（委員）

- ・蜘蛛の巣状態、環状線みたいなものがあればという意見があったが、例えば今の東部地区のコミュニティバスなどは、放射状に張り巡らされたバス路線に対して横をつなぐ役割を持っている。豊橋駅の中心に向かうバスの需要に対して、横方向の需要というのはどうしても限定的になるために、今の計画では放射状は少なくとももしっかりバスで担保しようという考え方なのかなと思う。

（委員）

- 半径 400m や 700m という距離が、実際遠いところに住んでいる人たちには希望にもならず、見えていない。そのあたりは、皆さんにお知らせしておく并希望も見えるかなと思うが、計画とかはあるのか。

(事務局)

- 数字を周りの方にお知らせしていかないと、と思っている。

(委員)

- なかなか乗る方が多いところでない(バスを)走らせられないのが現状。それに代わるのが南部地区で運行されているデマンド型交通。例えば、そういうものを地域で立ち上げられると、もう少しカバールの圏域が広がることもあり得ると思う。要望としてあげたり、地域の中で考えていく機会を作ったりするのが大事だと思う。

(委員)

- 通常の路線バスを豊鉄バスさんが運行していて、それは放射線状になっている。昔からあるので幹線の道路に走らせているのが現状である。昔はもっと路線バスがあったが、人が乗らなくなり撤退し、足がなくなったところに現状のコミュニティバスという形でみんなの足を確保しているという状況。蜘蛛の巣のような環状のコミュニティバスは、地域の方が「みんなで利用しましょう」と言って乗って頂きながら行っている仕組み。ぐるっと回る仕組みをどういうエリアでやるかという検討も必要だし、乗って頂かないと空気を乗せていると昔から言われているところもある。今の環状は、豊橋駅に行けば必ずそこから次に行けるという利便性が良い状況になっている。その部分をどう厚くしていくか。サービス水準をあげたり、分かりやすく乗りやすくしたりするために、まずはそこに力を入れていきたいと思います。ということで、放射線状に整備をしながら強化をしていくのが今の計画の進め方になっている。ただ、今後市民の方が環状にほしいという需要があれば、採算が合うのであれば、事業者さんにやってもらうとか、市が運行するとか、そういう方向になっていく。ただ、距離が遠いと、みんなの足を確保するかという話になると、なかなかいま全国的にも課題になっているところ。公共交通で行くときは一人一人が誘って、タクシーも公共交通なので、タクシーを使ってもらったり、近くの駅まで誰かが車を出して乗り合ったりするなど、いろいろな公共交通の使い方はある。そのあたりを皆さんにPRしながら、公共交通をぜひ使ってもらって維持していきたいというのが今の市としての考え方になっている。

(議長)

- 今回の評価として、コロナの状況を踏まえ、目標人数は達成していないが、一定の必要とする層の足を支えたという点でB評価中心になっている。その点について問題ないかご意見いただければ。

（委員）

- 支えたから B というのではなくて、自己評価なので A でも B でも皆さんが頑張ったと思えば A だし、そこは自己評価として評価していただければ良い。ただ、要因の全部が「新型コロナウイルス感染症の影響」により減ったというのは、確かに大きな要因なのでそれはそれで確かだが、一方で今後の対策として地域の実情を踏まえた対策を取っていくと言っている中で、各地域の実情やコロナウイルスの影響もそうだが、それがどのようなところに現れていて、今後どのような対策をとっていく、というきめ細かな実態としての分析がどのようにされているのかが、とても大切な点だと思う。

（事務局）

- 実態を把握していくというところでは、資料 1-1 「⑥事業の今後の改善点」にあるようにアンケートの実施などを書いている。おっしゃる通り、ガクッと減ってしまった数字の要因を分析して対応していくことが大事だと思っている。

（委員）

- この先解決するのか、このままになるとすれば、どのようになるか把握していただければ、書いてある利用促進策について、ターゲットをどういうところに持っていくか、どういうところでやるかも含めて深めていけば良いのではないかなと思う。

（委員）

- コロナで利用客が減っているということに関連して、私のゼミに、卒業研究で多米と石巻を対象にコロナの前後で買い物行動がどのように変化するかを研究している学生がいる。60 代以上の方にアンケートを取ったところ、スーパーマーケットの利用は変わっていなかったが、コンビニの利用が増えている一方で、ショッピングセンターのような大規模な場所での利用は減っていた。つまり、買い物行動における地理的範囲がかなり狭まっている。もしかしたらそういう理由もあるかもしれない。

（委員）

- 生活変化をおさえていくとよろしいのではないかなと思う。

（事務局）

- 承知した。

（委員）

- 戦略 1～4 とあるが、その中でここ 1～2 年の最近に実行されたことについてどう

だったかをもう少し書き込んでいただけるとありがたい。例えば、駐車場の整備、組み立てスペースの整備、ウォーキングイベントの実施などいろいろあるが、実際どんな反響なのか。おそらく日が浅いということで書きづらい部分はあると思うが、滑り出しとしてどういう状況なのか、今どう状況をつかんでいるのか。

（事務局）

- それぞれの事業の実績は把握しているので、おっしゃる通り追記していければと思う。

（委員）

- 市民の方など、いろいろな方がいらっしゃる協議会の場合なので、ざっくばらんに皆さんで情報共有できるものがあればいいなと思う。

（議長）

- 例えば、イベントの取り組みとして好評を得ているあたりなど簡単にいただければ。

（事務局）

- 戦略1のバスロケーションシステムの導入については、バスの位置情報のGTFS化を実施ということで、写真にあるようにこれに基づいたアプリができて、各バス停にもアプリにつながるような二次元コードが貼ってある。かなり利便性が上がり、豊鉄バスさんからも「利用者さんから反響が良い」という声を聞いている。
- 戦略2の「地域生活」バス・タクシーの利用促進は、先ほど報告した通り。オブザーバーの皆さんからも各利用促進の状況を後程ご報告いただくので、説明をお待ちください。
- 戦略3のまちなか交通の魅力向上については、写真にあるように豊橋駅自転車組み立てスペースの整備を行っている。渥美線はサイクルトレインも行っており、この組み立てスペースの親和性も高く、相乗効果が出ている。月20人～最大40人くらいの利用がある。
- 戦略4の東三河バス整理券ラリー&歴史謎解きゲームは夏に実施して、バスの利用者数としては4,213人、ゲームの応募者数は161人だった。ゲームは二次元コードを用いて行ったので、そこへのアクセス数は1,447件という実績がある。

（議長）

- ご意見としては、資料にもう少し効果なり実績なりを追記した方が良いということかと思う。

（委員）

- 何かをしたというのは、やったことも大切だし、分析も大切だが、もう一つ大事なことはやったことに対して自分で自分をほめてあげて、アピールすることがみんなの活力になるので、そこをしっかりとフォローしていけたらと思う。

（委員）

- サイクルトレインは、何回利用したかではなく、個人がルートを作っているからそれでいいでもなく、利用するために「サイクルトレインはこういうふうに行けるんですよ」という形で、「豊橋はこんなに楽しく自転車で回れるんですよ」「湖西や蒲郡、新城の方までこういうふうに行けるんですよ」という PR 方法が良くて、「サイクルトレインがありますよ」ではない方法で PR 出来ないものかなと思っていて。もし一人でそこへ行っても、そのルートを通って行けば一日楽しめるなどか、そういうウォーキングみたいな方法でできるサイクルトレインの PR を考えられないかなと思っている。

（事務局）

- サイクルトレインは昨年度、今年度と車両にいろいろ PR し、駅にも PR しているが、それをさらに広く PR するために、今、豊橋でサイクリングマップを作成している。そちらにも「サイクルトレインに乗れますよ」というルートを載せつつ、豊橋道の駅や駅の観光案内所、豊橋市役所含めて様々な場所で配布している。ただ、どうしてもまだまだ認知が少ない。渥美線なので、そこから浜松、蒲郡と連携が微妙なところもある。だが、サイクリストは距離をたくさん走るので、マップを通じていろいろなところとつながるという意味で、マップの作成やイベント等含めて周知を図りながら皆さんに知っていただく、使っていただくという方向で進めていきたいと思っているし、今進めているところである。

（委員）

- 使っていただくのではなく、何かをしたから使っちゃったという感じの考え方の反対というか。マップを見せていただいたが、豊橋市のことしか書いていない。田原とも書いていなければ湖西のことしか書いていない。自転車で走ると小学校でも中学校でも伊良湖まで行ける。そういうことを地元でない人たちが知っている。自転車に乗れますよ、電車に乗れますよ、バスに乗れますよということは大事だが、プラスそれはなんでそうするのかということを、やってもらえるような企画を載せた地図や、隣の市との連携をとらないと自転車は日本中どこでも走れるので、もう少し広げたら利用者も増えるのではないかなと思う。

（事務局）

- 非常に参考になる意見。田原市もサイクリングマップを作っていて、作るときに互いにつなげられるように意識したり、見るときも田原市と豊橋市のサイクリングマ

ップがバラバラだと走るときに見にくいこともあるので、そこはしっかり同じような形にしたりして一人の人が田原と豊橋のマップを見たときに混乱しないように工夫をしている。このような形で湖西市さんともマップのつながりをしっかり話している。実は、作るときは必ず隣の自治体と連携して行っているので、そのあたりはご意見をしっかり受けとめながら今後も意識していきたい。

（委員）

- ご提案いただいたモデルルートのような、「これを使うと、こういう行動パターンがとれますよ」というのは、単なる利用促進だけではなく、地域の経済の発展や活性化につながる話。そういうことをサイクリングルートだけでなく、コミュニティバスについてやっているところも事例としてあり、かなり好評だったという話も聞いている。例えば、この先マップやパンフレットなどを作るときに、モデルルートのようなものを入れるということを検討されて、さらにそれが湖西市や田原市と連携したようなルートになっていると、利用される方がいろんな行動の仕方ができて、各自治体との連携もとれるのではないかと。ぜひ今後の方策としてご検討いただければと思う。

（委員）

- 他の地域と組み合わせた形というのはすごく大事なことで私も思う。新しい需要の掘り起こしとか観光需要とかも含めて今のご指摘はすごく大事。それが市民の方から出ているということがまた大事。「ひとつの地図を組み合わせたら一体的になるように見えます」ではなくて、この地域の方だけでなく、他の地域の方がインターネットで調べて見た時に、「あっ、そういうことか」と分かるように、ネットの利用を含めたことも考えていければ。先ほどの謎解きゲームのインターネットのアクセス数もひとつ新しい取り組みだったと思うので、今後広げるためにどのようにやっていくかを検討されると良いと感じた。

（委員）

- 資料1-1について、今年度の年間利用者数の目標が前回と同じだったり、前回より減少していたりするところがある。例えば、北部地区は7,200人と同じだが、南部地区は2,600人から2,200人に減少している。梅薮前芝路線は9,000人から8,000人、川北地区は変わっていないが、野依地区だと117,000人から86,500人。根拠はあるのか。

（事務局）

- 書面開催になった第1回の協議会の際に目標数値を設定していて、その数値を反映している。第1回の際はコロナの影響を受けているということで、それぞれの目標を切り下げて設定していた経緯がある。

（委員）

- 乗車数が減少した要因が、いずれも「新型コロナウイルスによる影響」と書かれている。ということは、目標数は同じでも良いかなと思う。要因が同じなのに目標数が減っているところと減っていないところがあるのは、根拠は何かとお聞きしたかった。

（事務局）

- 協議案第2号にも関係してくるが、コミュニティバスは継続性というところを判断していく。目標数値が継続性を担保できないような数値になっていると、例えば目標数を100人にしてしまうと、確実に継続性を担保できなくなってしまう。目標が切り下がっていない地区というのは、これ以上下げられないという認識で良い。

（委員）

- コロナの影響で確かに減ってはいるが、その他の要因もあって、もともと目標を達成できていない地区はある。なので、例えば広告収入で補って運営するなど、そういう方法をとった時、運営上問題ないような人数を新たに設定する際に、その状況が地区ごとに違うということだと思う。

（委員）

- そのような分析結果に基づいた数値ということが分かれば良い。そのあたりがよく分からなかったので、どのように設定したかお聞きした。

（議長）

- 詳しくは前回の資料を見れば理解できるということによろしいか。

（事務局）

- 前回6月にお送りした書面開催の資料5に詳しく書いてあるので、ご参照いただきたい。

（議長）

- 説明を別途して補備いただけると良いのではないか。お願いしてよろしいか。

（事務局）

- 承知した。

（議長）

- 資料1-2については、先ほどご意見いただいた内容の修正が入ると思う。実施した

項目として入っているが、それでどういことが得られたかといことを少し追記するような修正をする形になるかと思う。

- ・ご意見を元に修正し、確認は私の方で一任していただければと思うがよろしいか。

(事務局)

- ・指摘いただいたことに関して、修正する。
- ・議長から協議案第1号について諮ったところ、全会一致で承認された。

○協議案第2号 「地域生活」バス・タクシーに係る運行継続の取扱いについて

- ・事務局より、「地域生活」バス・タクシーに係る運行継続の取扱いについて、【資料2】に基づき説明が行われた。
- ・事務局より、東部地区「地域生活」バス・タクシーの本格運行の継続について、【資料2-1】に基づき説明が行われた。
- ・オブザーバーより、東山バス運営協議会の取組について、【資料2-2】に基づき説明が行われた。
- ・事務局より、北部地区「地域生活」バス・タクシーの本格運行の継続について、【資料2-3】に基づき説明が行われた。
- ・オブザーバーより、石巻・下条地域交通推進委員会の取組について、【資料2-4】に基づき説明が行われた。
- ・事務局より、南部地区「地域生活」バス・タクシーの本格運行の継続について、【資料2-5】に基づき説明が行われた。
- ・オブザーバーより、表浜地域公共交通推進委員会の取組について、【資料2-6】に基づき説明が行われた。
- ・事務局より、前芝地区「地域生活」バス・タクシーの本格運行の継続について、【資料2-7】に基づき説明が行われた。
- ・オブザーバーより、しおかぜバス運営協議会の取組について、【資料2-8】に基づき説明が行われた。

- ・事務局より、川北地区「地域生活」バス・タクシーの本格運行の継続について、【資料 2-9】に基づき説明が行われた。

- ・オブザーバーより、かわきたバス運営委員会の取組について、【資料 2-10】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- ・各運行のご努力について、市としてはどのような関わりをしているのか。

(事務局)

- ・本市の「地域生活」バス・タクシーは、地元の運営委員会と豊橋市と交通事業者の三者が一体となって運営している。各団体からの報告にもあったように、毎月や四半期ごとに定例会があるので、そこで顔を合わせて運営に関して協議している。

(委員)

- ・各地区で行われている取り組みについて、例えば「この地区ではこんな取り組みをしている」「こんな会合に出ています」など情報共有はされているのか。

(事務局)

- ・先ほど申し上げた会合の時には、「他の地区でこういう事例がある」というのは伝えられている。例えば、北部地区でコロナのワクチン接種のために乗車した方は無料にする取り組みは、他地区の4団体にも「このようなスキームでやっている」ということは報告した。各地区でも自分たちのところでできるかを検討した上で、実施したのは北部地区だけだった。

(委員)

- ・地域運営団体の方が直向きに取り組んでいただいているが、そこをつなぐ情報共有のような役割は、市がしっかり果たしていただいているというところだと思う。
- ・資料2の川北地区の継続性は、令和2年度が未達成で、令和3年度上半期は達成となっているが、両方未達成に見える。ここは修正していただいた方がいいのかなと。

(事務局)

- ・資料2-9に関して、③の継続性は全体でいうと未達成だが、年度で考えると令和2年度が未達成なのでご指摘の通り修正していきたい。

(委員)

- ・令和2年度と3年度の上半期を足して達成しているかどうかの評価なのか、それとも個別に評価して達成、未達成なのか。

(事務局)

- ・前者の評価。

(委員)

- ・そういうことで未達成であるなら、承知した。

(委員)

- ・南部地区で2つ地域があるが、地域の違いはどういったものか。

(事務局)

- ・地域の違いは、中学校区の違い。お手元のマップをご覧くださいと参考になると思うが、かなり広域になっていてマップの南側の緑色になっている部分全てが南部地区の対象地域。真ん中くらいで高豊地区と細谷・小沢地区に分かれている。

(議長)

- ・その地区の違いではなく、かなり達成状況が違うのはなぜかという結果の違いをお聞きしたいのでは。違いが出たところの要因を把握されていれば。

(事務局)

- ・質問を勘違いしてしまい申し訳ない。各地区の違いだが、どちらも南部で農業中心の地域になり、特性としては似ているところがある。単純に住んでいる人口が違うということと、ヘビーユーザーの存在がある。高豊地区においては強いヘビーユーザーがいるので、そういったところで差が出たのかなと思う。

(委員)

- ・人口だけで言うと、高豊地区の方が少ないということ。むしろ少ないが、(目標数の)倍くらいの利用状況になっているのは、ヘビーユーザーの存在ということによって正しいか。

(事務局)

- ・その通り。

(委員)

- ・ヘビーユーザーがいたから達成できたということよりも、そうでない面でも利用者が安定的に利用する状況に今後されていくということで良いか。

(事務局)

- おっしゃる通り。実は南部地区は5年前にアンケートをしているが、この5年でだいぶ情勢が変わってきたらということなので、現在アンケートを実施している。改めて2つの校区の特性や違いを測っていきたいと考えている。

(委員)

- アンケートを実施して検証されるということなので、結果をもとに細谷・小沢地区でも利用が伸びるような取り組みの方法や、利用者の発掘に取り組んでいけるとよろしいのではないか。

(委員)

- 概ね減っている理由の中で、新型コロナウイルスの感染を理由に入れていて、運営協議会の方もそちらについては周知していると言っている。せっかく地域の方にやっていただいていることなので、例えば利用者にはこういう伝え方が刺さるというような工夫は「あった」のか、「あるといい」なのか、「今後どうしていこう」とか、そういった面をお願いしたい。

(事務局)

- 承知した。

(議長)

- 各地域運営団体の方からいろんな意見や実際のご体験を伺って、地域運営団体間で共有するところについては市の方で支援していただけるとよろしいのではないかと
思うので、今いただいた意見に従ってご検討いただければと思う。

- 議長から協議案第2号について諮ったところ、全会一致で承認された。

○報告第1号 北部地区「地域生活」バス・タクシー停留所の移設及び運行時刻の変更について

- 事務局より、北部地区「地域生活」バス・タクシー停留所の移設及び運行時刻の変更について、【資料3】に基づき説明が行われた。

○報告第2号 「夏休み小学生50円バス」の実施結果について

- 事務局より、「夏休み小学生50円バス」の実施結果について、【資料4】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- コロナの状況でどうしても、特に小学生は夏休みに活動すること自体、今年の夏は制約がかかってしまったのだと思うが、周知自体は通常通り行っていたのか。

(事務局)

- 周知自体は、令和元年と同じように各小学校にパンフレットの配布をお願いしたり、主要な場所にパンフレットを設置したりと周知活動を行った。

(委員)

- その際、「コロナの状況に気をつけて」とか、「利用の際はこういう風にして」とか感染対策などのアピールはしたか。

(事務局)

- パンフレットの中には公共交通での新しい生活のあり方というところで、コロナの中でのバスの乗車の仕方や、体調の悪い時は参加しないようにといったコロナに対する周知は徹底した。

(委員)

- 去年は実施できなかったということで、間が空いたことがまた減る要因の一つになっているのかなと思う。継続的に実施していく中で、せめて次年度は回復し、利用者が元通りに増えて来ることを期待したい。

(委員)

- 市民プールは廃止のままか。

(事務局)

- 豊橋市民プールは今年廃止となった。

(委員)

- 子供会の行事の中止と市民プールの廃止が、減少の2つの大きな要因と言われた。では来年以降どういうふうになっていくかを予測した時に、市民プールが廃止し続けるなら再開されて増えることはない。となると、次は子供会の行事が今後どうなるか。おそらく子供会の行事は、個人的な感覚だが、学校では集まっているので子供達が集まること自体がダメなのかどうかという議論がそんなにハードルが高いものではないと思う。つまり、お母さん方が行事を作って引率をする時に親御さん同士が触れ合っていない。しかも、行事を行うにあたり、お母さん方が集まって話し

合いをする、引率をする、つまり子供達が普段触れ合っていない人たちと触れ合う機会が増えることについて、そういうことが要因で子供会の行事が中止になったのではないか。

（事務局）

- 子供会の行事の中止の原因というところまでは究明できていない。お話いただいたところはその通りだと思う。
- 利用増に関しては、市民プールの分は見込めないというのはご指摘の通り。お子さんたちの移動の目的というところをしっかりと創出しなければ、利用者の増加は難しいのかなとは感じている。

（委員）

- 市民プールというのは、その市民プールか。

（事務局）

- 豊橋公園にあった市民プール。

（委員）

- 豊橋公園の市民プールは今年やっていたと思うが。

（事務局）

- 今年で営業が終了となった。

（委員）

- 今年の9月までやっていたのでは。

（事務局）

- その通り。

（委員）

- タイムラグが少しある。

（事務局）

- こちらの説明が十分でなかったが、50 円バス自体は東三河全域でやっていて、豊川と蒲郡のプールも無くなっているというところがある。また、ご指摘にもあった通り、子供だけでバスに乗せて市民プールに行くという行動自体が自粛してしまったというところがあり、利用者減少になったのかなと考えている。

(委員)

- 子供はすごくプールを楽しみにしている。それを廃止するということはよく分らない。
- 子供がバスに乗るといって、夏休みだけでは来ないかもしれない。例えば、遠足などであえてバスに乗せて、普段から慣れさせるなど、そういうことも考えていかないと、夏休みだけのこうのでは。
- 緊急事態宣言が出ている時は止むを得ず、ほぼ（イベントが）中止になる。一般市民がどうのこうの言うとかすぐ中止にするなど、風評みたいなものがある。行政がちゃんと「感染対策をしっかりとやって、（イベントを）やりましょう」というイメージがないと、ちょっと言われると遠慮しちゃう。今後ぜひ、一生懸命、感染対策などを大切にして動かしていこうという姿勢をぜひお願いしたい。

(事務局)

- おっしゃる通り、コロナの中でも安全に乗ってもらえるようにしっかり考えている。今回行ったイベントについては、密にならないように各自がそれぞれのタイミングや、自分たちが社会状況を見ながら参加できるように期間を長く設定しているもので、二次元コードを使ってなるべくリスクを減らして行くなど、工夫しながらコロナ渦でもできるイベントをと考えてやっている。いろいろいただいたご意見を参考にしながら進めて行きたいと思う。

(委員)

- 今年の夏の状況を考えると、団体的な行事はかなり実施しにくい、ほとんどされていない状況だったと思うので、その中でも逆に言うと、延べ2,400人くらいが豊橋市内だけで（バスを）使っている。だからニーズがあるのだろうし、50円バスというのは子供の頃からバスを使う機会を体験してもらうことで、継続的にバスの利便性をちゃんと理解してもらうところだと思うので、団体行事の中で使い方を覚えてもらうということもあるが、より日常的な利用の方につながって行くためにも、個人や親と一緒に外出する時に使ってもらえる機会が広がるような周知の仕方や取り組みを合わせて行っていただけるとよろしいのではないかなと思う。

○報告第3号 協議会今年度利用促進事業の実施状況について

- 事務局より、協議会今年度利用促進事業の実施状況について、【資料5】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- おはなしでんは、すごく良い取り組みだなと思う。かつ、ものすごく好評だったの

だと思うが、応募が174名に対して40名しか参加できなかったということは130名くらいは応募したが行けなかったということなので、高いニーズがあるものは継続していただきたいなど。準備も大変だと思うので限界はあると思うが、今後継続的に開催する予定とかはあるのか。

（事務局）

- ・ 次回をぜひ、やりたいと思っているところ。今年度の利用促進の取り組みの中で絵本を作っているところ。その絵本が年明けに完成予定なので、その際に絵本とおはなしでんを連携させた取り組みも実施できればと考えているところ。

（委員）

- ・ ぜひ開催をしていただければと思う。

（委員）

- ・ おはなしでんは、市電を愛する会とコラボしているのか。

（事務局）

- ・ 今回は協議会での主催ということで、表立った連携はなく実施した。

（委員）

- ・ 豊橋市電を愛する会は、来週の火曜日には創立記念式典があるので、そういうところとコラボするととっても良いものができると思う。市電を愛する会の方もいろいろ考えている。すごく良いアイデアなので、ぜひそうやって一緒にやっていただけるよう、よろしくお願いしたい。

（委員）

- ・ 実施には費用がそれなりにかかるのか。

（事務局）

- ・ 市電の貸切料金が主なところで数万円。読み聞かせなどは、図書館でいつもボランティアで読み聞かせをしている方々にお願いできたので、人件費は発生していない。

（委員）

- ・ いろいろなところとコラボすることで、そういうところの問題も解決して、回数を増やすことなども考えられるかもしれないので、情報共有などはされたほうがよいのではないかと思う。

(委員)

- ・取り組みをする時に、その場所に行くまでの間にどんな交通機関を使っているかは聞いたか。例えば、おはなしでんに乗るために乗用車で来て、市電に乗っているのか、公共交通機関でここまで来ているのかなど、そういうところはどうかだったか。

(事務局)

- ・おはなしでんはアンケートをしていて、集計もしているところ。アンケートの中に「どのような交通手段で会場まで来たか」という設問は設けていなかった。今回は抱っこしなければいけないくらいのお子さんを持つ方々が対象だったというところで、正直お車で来る方が多いのかなと思い、アンケートの紙面の都合上、削ってしまった。

(委員)

- ・抱っこして、とかはよく分かる。一方で、ベビーカーで移動できることを考えて行くこともあるのかなと思うので、今後考えていただければと思う。

(委員)

- ・次回開催されるようであれば、アンケートの中にどのような交通手段で来たかということを知るのもいいし、例えば市電に乗るまでの公共交通機関に対して割引とか無料にするということをセットにする方法もあるので、ぜひご検討いただければと思う。

(委員)

- ・資料4や5の取り組みなど、子供達に対していろいろと取り組んでいただいている。子供向けと言いながらも実際は親の公共交通に対する考え方や姿勢にも、すごく影響を与えるような良い取り組みではないかなと思う。各交通事業者さんも一緒になって取り組んでいただいていることで、頑張っている姿勢も同時に見せていただけていると思っている。行政が行う事業は何かと数字やお金にとらわれてしまうが、引き続き継続いただければと思う。

○報告第4号 新豊線・豊川線の運行時刻の変更について

- ・委員より、新豊線・豊川線の運行時刻の変更について、【資料6】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- ・バスロケが入ったことで、ダイヤの適正化に取り組めたと思うが、こういう取り組

みはこれからもまた状況を見ながら行う予定か。

(委員)

- この後説明する 11 月 15 日にもダイヤ改正をしていて、それもバスロケーションシステムのダイヤを活用して編成、組み換えをしている。

○報告第5号 域内路線のダイヤ改正について

- 委員より、域内路線のダイヤ改正について、【資料7】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- コロナの状況を踏まえて、路線によってはかなりの減便をされたと思うが、コロナの前の状況なども踏まえているのか。というのは、これから通常の状態に戻って来た時に、かえって利用者から不便だという声が上がらないかというところ。例えば私は技科大なので、技科大だとコロナの最初の頃はほとんどオンライン授業で学生が大学に来ていない。ということは、その期間はかなりバスの利用がなかったと思う。今も 10 月の中旬から対面授業に戻って学生も普通に大学に来ている状況だが、コロナで一番大学に学生も来ていない状況の利用状況で、今の需要に対して対応するとなると、厳しくなってくるのではと思うが、そのあたりはどういうお考えでやられたのか。

(委員)

- 実態に合った改正と申し上げたとおり、実際にご利用があると予測できるところは、ほとんど見直ししていない。技科大線で言うと、日中 1 時間に 3 本運行している所を 2 本にした。これにより豊橋市内各線全部、昼間帯を時間 2 本にした。路線維持の為、ご利用の皆様にはご理解いただけていると考えている。乗っていただいている方は多少不便を感じると思うが、大きく影響しないようなダイヤ編成にしている。今後利用が増えれば、利用実態に合った見直しも検討するので、一旦これで実施させていただいている。また、今回は最終便を、約 10 分から 30 分程度最終を早め、お客様からお叱りを頂くと想像していたが、最終便が早くなることに対するご意見は聞こえない。運転時分を見直した関係で、1、2 分遅くなったことにより「電車に乗り継げなくなるではないか」との意見は頂いたが、実態に合った時間に見直ししたので、実際にご利用いただけているお客様にはご理解いただけていると感じている。ダイヤ改正実施後も「困る」とのお問い合わせはないので、ダイヤシステムの導入効果があったと感じている。

(委員)

- まずは事業として継続できるかということがあると思うし、特にコロナの状況でか

なり厳しい状況だったと思うので、今後引き続き利用者の声を聞きながら可能なところでのご対応をお願いできればと思う。

(委員)

- 努力していくので、よろしくお願いしたい。

3. その他

(質疑等)

(委員)

- いただいた公共交通マップは「12月1日現在」ということだが、来年も同じタイミングでの改定か。昨年は10月1日だったが、それを教えていただきたい。

(事務局)

- 来年度に関しては、10月1日に戻したいと考えている。

(委員)

- 承知した。ぜひその時は鉄道、バス、タクシーも、ちょっとずつではあるが状況は変わって行くと思うので、改定の作業前に要望や質問、意見があるのでぜひお声がけいただきたい。

(事務局)

- 承知した。

(委員)

- この場を借りて一つご報告したい。愛知県では2017年に「あいち公共交通ビジョン」を策定し、県民の皆様、交通事業者の皆様と共に取り組みを推進してきた。このビジョンが今年度末で期間満了ということで、現在、「次期あいち公共交通ビジョン」を策定している。ビジョンということで2030年～2040年と先を見据えて取り組むべき方向性を取りまとめるもの。12月末ごろにパブリックコメント、2月の公表に向けて作業を進めている。新しいビジョンについても皆様と共にしっかりと取り組んでまいりたいと考えているので、引き続きよろしくお願いしたい。

(委員)

- せっかく公共交通マップを出すのなら、「2021年度版」とあるが、来年1月は2022年となり、古く見える。この時期に出すなら2021年～2022年度版とか、知恵を絞ってもらうと良いかなと。私たちは次へ次へとやって行くものだから、一般の業界の考えだがよろしくお願いしたい。

(事務局)

- ・表現方法については、一番良い方向を考え、しっかり見直していきたい。

(委員)

- ・ちょっとした工夫で、というところだと思う。

(委員)

- ・細かく見られる人はいいが、利用する側から見ると、例えば「市民病院に行くには何線の何便に乗ったらいい」とか「動物園に行くには何線の何便に乗ったらいい」などの広告、PRの仕方が良い。地図に載せてという意味ではないが。
- ・タクシーも意外と年齢がいつている人からすると、ハードルが高い。「タクシーを呼んでもいいのは病院に行くときだけ」という頭があるので、「こういう時にここからタクシーに乗って公共交通機関で行ってください」というような具体的なルートを載せていただくと良い。
- ・小学生にしても「自分のところから動物園へ行くのに、何線と何線に乗ってどこでどういうふうに乗換えたら行いけるんだよ」というようなルートがあると、親も出しやすいし、利用しやすいし、公共交通機関に乗ろうかなと思う。今の豊橋だと「まあいいわ、送って行くわ」という形が多いので、そのあたりの行動に移すための方法が、いろいろな資料を出すだけではダメなのではないかなと思う。

(議長)

- ・先ほどいただいた内容と似ていて、利用のモデルルートというか、「こういう使い方ができますよ」という例のようなものを示すことで、より利用のイメージを持っていただきやすくなるというご意見かと思うがいかがか。

(事務局)

- ・公共交通マップの裏面にも、主な公共施設への行き方は案内している。ただ、書いてあるから良いという話ではないので、ご指摘いただいたところは真摯に受け止める。
- ・紙面では限界も出てくると思うので、スマートフォンなどの活用も考えながら、モデルルートなどもお示ししていけると、より公共交通の利用が促進されて行くのかなと改めて感じたところ。

4. 閉会

- ・事務局長の都市交通課長から閉会の挨拶があり、会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員

.....

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員

.....